

重層的支援会議報告

志木市では、地域共生社会の実現に向け、複雑化・複合化した課題を抱える世帯等に対し、関係機関が連携して支援する「重層的支援体制整備事業」に取り組んでいます。

その取組の一環として、令和8年7月30日（木）に重層的支援会議を開催しました。

開催概要

開催日：令和8年7月30日（木）

会場：志木市役所 大会議室 3-3

参加機関：相談センターしき彩の杜、みつばすみれ学園、高齢者あんしん相談センター（ブロン、館・幸町、柏の杜、せせらぎ、あきがせ）、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、基幹福祉相談センター、庁内関係機関

（１）本会議の目的

重層的支援会議は、従来の分野ごとの支援だけでは解決出来ない課題について、関係機関がそれぞれの専門性を生かしながら連携し、世帯全体を支えるための支援体制を検討する場です。また、個別の課題解決にとどまらず、支援を通じて把握した地域のニーズを地域づくりにつなげていくことを目指しています。

（２）グループワークで検討・共有したこと

複数の生活課題を抱える世帯の事例をもとに、参加者がグループに分かれ、「世帯の将来目指す姿」や「どの機関がどのような役割を担うのか」について検討しました。

検討を通じて、次の３つの視点が重要であることを共有しました。

世帯員それぞれの意向を大切にした支援

・支援者側の考えだけで方針を決めるのではなく、世帯員それぞれの意向を確認し、認識の差を少しずつすり合わせながら支援することが大切です。

行政・支援機関だけで抱え込まない仕組み

・特定の部署や支援機関だけで課題を抱え込むまず、関係機関がそれぞれの立場から連携・協力するとともに、「次に誰が支援に加われば状況が進展するか」という視点で、新たな関係者や地域資源の参加を検討する。

個別課題を地域課題につなげる視点

・個別の世帯の支援をする中で、必要なサービスや地域資源の不足など、他の世帯にも共通する地域課題が見えてくることがある。
・民生委員の見守り活動に負担を集中させず、新たな担い手や地域資源を開発する必要がある。

（３）今後について

今回の会議で整理した支援の方向性や役割分担を踏まえ、関係機関が連携しながら支援を進めていきます。また、個別の支援を通じて把握した地域のニーズや課題を関係者で共有し、地域づくりや必要な支援体制の充実につなげていきます。